

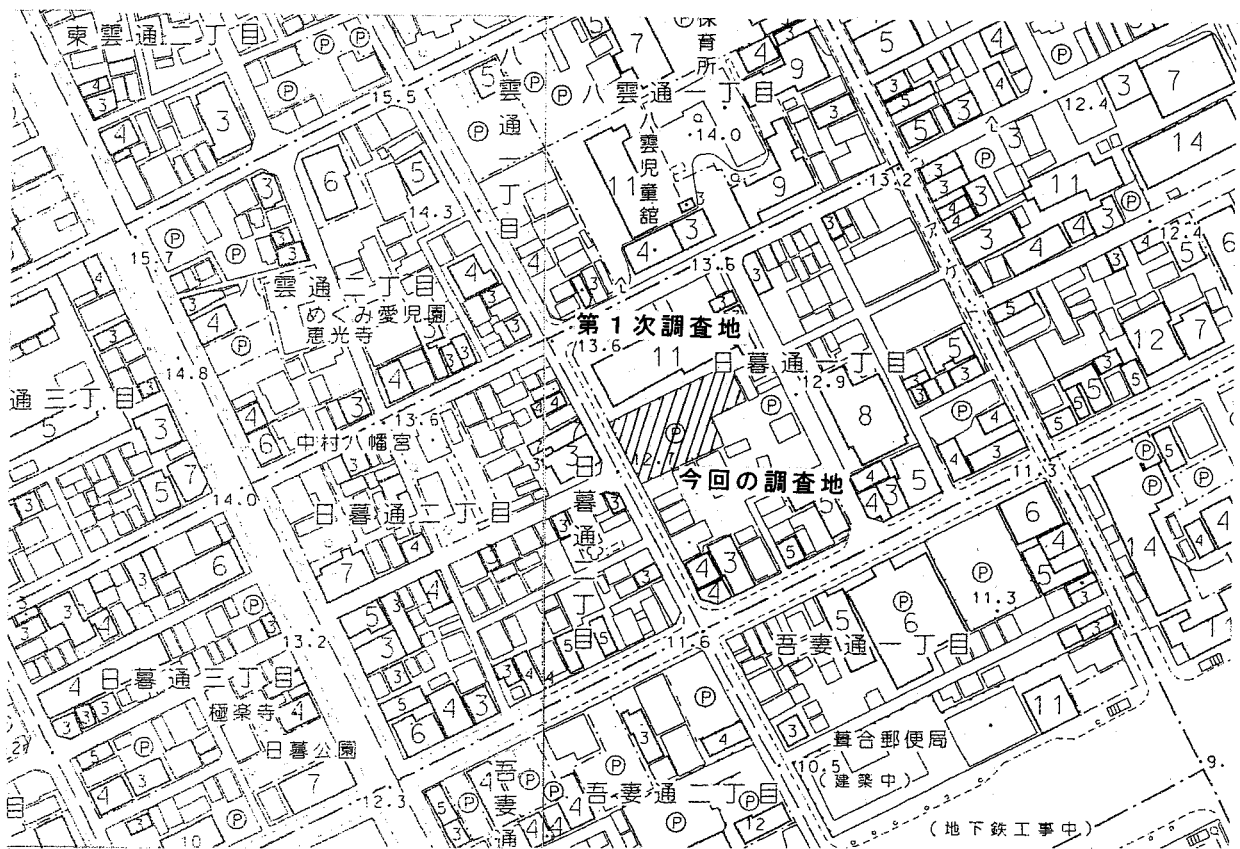
日暮遺跡第 31 次調査成果速報

平成 19 年 11 月 25 日

神戸市教育委員会

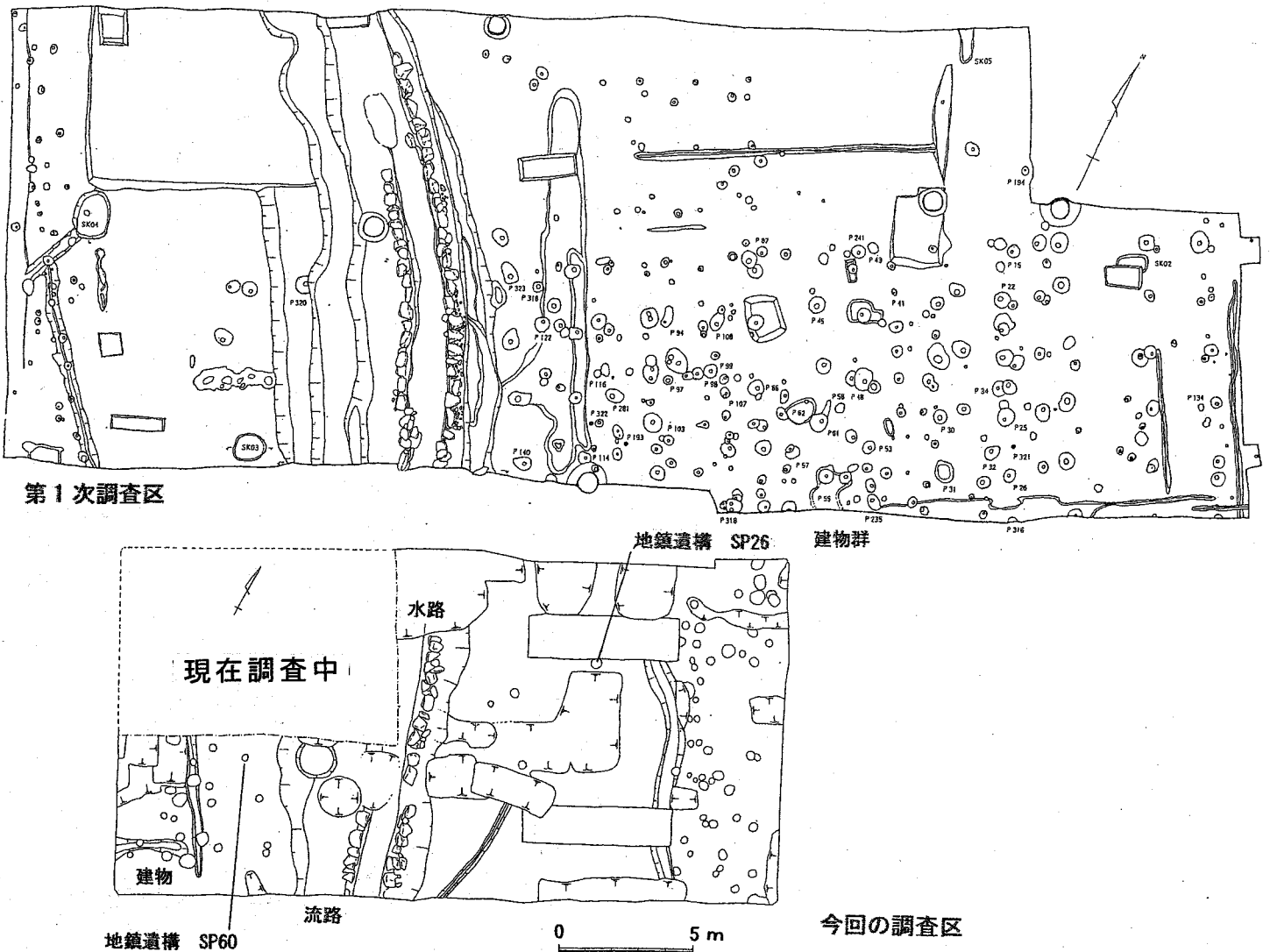
ひぐれいせき
日暮遺跡は、六甲山から流れ出す生田川などの河川の土砂によって、つくられた沖積地とよばれる緩い傾斜地の上に位置しています。現在のように埋め立てがおこなわれていなかった古代には、海岸線まで 300m ほどの距離で「**みぬめ**の浦」とよばれる良港があったとされています。また古代の幹線道路であった山陽道（後の西国街道）も通っており交通の要衝でした。

周辺には、多くの遺跡が存在しています。すぐ西には縄文時代早期の遺構が見つかった**くもい**雲井遺跡や、飛鳥時代の建物や鍛冶工房があった**にのみや**二宮遺跡、北には弥生時代後期の集落の熊内遺跡が存在します。また東には三角縁神獣鏡が出土したことで有名な前方後方墳、史跡西求女塚古墳が存在します。ほかにも割塚古墳などの小さな古墳があったことが知られています。



調査地位置図 [S=1:2,500]

この遺跡が発見されたのは、比較的新しく昭和 61 年に、市営住宅シティハイ
ツ日暮の建設が計画されたことによります。工事に先立っておこなわれた第 1 次調
査では、平安時代と古墳時代の 2 時期の遺構面が確認され、なかでも平安時代の建
物は数棟が整然と建ち並ぶ立派なもので、有力な人物の邸宅と考えられています。
その後、現在までに 30 回の発掘調査が実施されており、古墳時代の^{たてあなじゅうきよ}堅穴住居を
はじめ古代から中世にかけての^{ほったてばしらたてもの}掘立柱建物などがみつかっています。



第 1 遺構面（平安時代）平面図 [S=1:250]